

学校教育目標	自ら学び 豊かな心を持ち たくましく行動できる子どもの育成
育成を目指す 資質・能力	・自分の考えを持ち、発言できる ・なかまの考えを大切にし、伝え合うことができる ・探究心をもって、学びを広げ深めることができる

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> 5年大分県学力定着状況調査(4月26日実施)・6年全国学力・学習状況調査(4月19日実施)において、国語では、叙述をもとに登場人物の気持ちや段落相互の関係を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えをまとめるたり、自分の考えを書き表すことに課題が見られる。算数では、図形を構成する要素に着目して意味や性質・構成の仕方についての説明したり記述したりすることに、理科では予想・実験の見通しや結果・結論を実際の日常生活とのかかわりの中で見直すなど実感を伴った理解に課題が見られた。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ・国語、算数、理科の活用問題や条件を踏まえた記述式の問題への対応 ・実験や観察の結果を日常生活で活用する場面と関連付ける理科の授業展開 ・「何を求めるのか」「どんな条件で求めるのか」等読む目的をしっかりとらせる授業や書く目的・意図を理解させ、自分の考え、その理由を書く活動を取り入れる授業の展開 ・低学力層児童の学習を支援するため、習熟度別学習を取り入れたり休み時間等を活用した補充学習の時間を確保する体制づくり
	<b>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</b> 1学期の単元末テストの結果では、「知識・技能」の観点で国語85.6点、算数87.5点、「思考・判断・表現」の観点で国語86.6点、算数80.9点となっており、全体としておおむね定着できているといえるが、低位の児童の底上げが必要である。また1学期の児童アンケートでは「自分の考え、まとめ、振り返りを書くことができた」が88%、「友だちに自分の考えを伝えることができた」が85%が「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> 授業や家庭学習で練習問題をさせながら、基礎学力の定着を図ることはできていると言える。振り返りについては、よりねらいに対応した振り返りをさせ、理解や考えを深められるようなものにしていく必要がある。自分の思いや考えを伝え合う授業については、少人数による話し合い活動を取り入れて、考えを深める場とした。互見授業は全職員対象で取組み中である。	
	<b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> 朝活動では、毎週月曜日の「読書タイム」での朝読書の他、木曜日は「はなまるタイム」として基礎・基本の学習に関わる取組を行っている。学校研究の中で、「めあて・課題・まとめ・振り返り」のある授業や「考えをもつ、伝え合う、書く」活動を取り入れた授業を実践している。家庭との連携や学級の雰囲気づくりなど、今後も工夫して進めていく必要がある。	

学力に関する達成指標
○国語、算数の単元末テストにおいて「知識・技能」の観点、80点以上のクラスが全クラス80%以上。(7月国語・算数とも12/13学級92.3%)
○国語、算数の単元末テストの「思考・判断・表現」の観点、70点以上のクラスが全クラス80%以上。(7月国語・算数とも13/13学級100%)

